

戸坂遺跡Ⅳ・鳥坂城跡

長野県佐久市新子田戸坂遺跡群戸坂遺跡Ⅳ・鳥坂城跡発掘調査報告書



遺跡調査地点の遠景

正面は浅間山、右手の田切り地形の台地上に戸坂遺跡Ⅳ・鳥坂城跡がある。縄文・弥生・古墳・奈良・平安時代の集落が戸坂遺跡群内で調査されている。左手の台地上には、高知町遺跡群が発見されている。

遺跡調査地点から望む

豊科山が遠望できる。手前の水田は、豊富な水の恵を享受できたであろう志賀湖のかつての湖底である。中央の台地上には、和田上遺跡や和田上古墳がある。左手は、寄山遺跡。

東方の台地間には志賀川が流下している。戦国時代末期の文禄年間に来の役を果たしていた語り岩が崩壊されて、志賀湖の干拓が行われた。



2008.3

株式会社 井出組
佐久市教育委員会

例 言

1. 本書は、株式会社 井出組が行う土砂採取に伴う戸坂遺跡群戸坂遺跡Ⅳ・鳥坂城跡の発掘調査報告書である。
2. 調査原因者 株式会社 井出組 代表取締役 井出 悦哉
3. 調査主体者 佐久市教育委員会
4. 遺跡名及び所在地 戸坂遺跡群戸坂遺跡Ⅳ（TOSⅣ） 鳥坂城跡
佐久市新子田字戸坂1079-2
5. 調査期間及び面積 調査期間 平成19年5月21日～平成19年6月18日
調査面積 170 m²
6. 調査担当者 林 幸彦
7. 本書の編集・執筆は、林が行った。
8. 本書及び出土遺物は、佐久市教育委員会の責任下に保管されている。

凡 例

1. 遺構の略記号は、住居址(H)・土坑(D)・溝状遺構(M)である。
2. 挿図の縮尺については、挿図中にスケールを示す。
3. 遺構の海拔標高は各遺構ごとに統一し、水系標高を「標高」として示した。
4. 土層・遺物胎土の色調は、1988年版『新版 標準土色調』に基づいた。
5. 調査区グリットの、間隔は4×4mに設定した。

目 次

例言・凡例・目次

第Ⅰ章 発掘調査の経緯

1. 立地と経過

2. 調査体制

第Ⅱ章 遺構と遺物

抄 録



第1図 戸坂遺跡群戸坂遺跡Ⅳ・鳥坂城跡位置図 (1:50000)

第1章 発掘調査の経緯

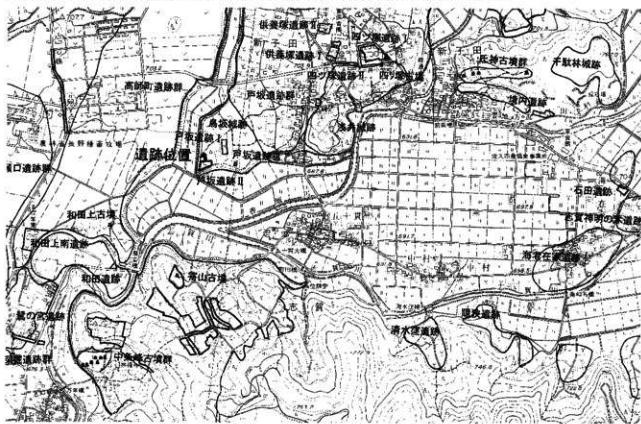
1. 立地と経過

戸坂遺跡は、佐久市新子山戸坂遺跡群の南西端に所在する。遺跡は、佐久平の北部に見られる諸河川の浸食によって形成された「田切り地形」南東端の台地上に立地する。遺跡の眼下南方200mには香坂川と志賀川の合流地点がある。合流地点から下流300mあたりは、潜岩と呼ばれている。かつて浅間山噴火に伴う軽石流の下には、基盤の岩石層があり志賀川の水が充溢して遺跡の眼下に「志賀湖」が存在したことが戦国期の絵図に描かれている。その後戦国末期から江戸初期にかけて、潜岩の開削作業が行われ、湖の干拓がなされたと伝えられている。

今回、株式会社井出組が土砂採掘を行うことになり、佐久市教育委員会が試掘調査を行った。結果、試掘調査により遺構が発見され、保護協議の後に記録保存目的の発掘調査を行う事となった。

周辺部には、志賀湖を取り囲むように数多くの遺跡が存在する。縄文時代の遺跡として南方の丘陵上に勝負沢・中条峯・寄山遺跡が展開する。縄文前期～中期の集落址また包含層からはおおびただし数の土器・石器群が出土している。西方の田切台地上には高師町遺跡群があり、縄文前期～後期の弥生時代中期・後期、古墳～平安時代の土器や石器が多量に表面採集されている。高師町遺跡群和山上南遺跡・馬瀬門遺跡では、弥生時代中期と平安時代の集落址が調査されている。古墳は、志賀湖を臨む南方の発掘調査された寄山古墳、西方台地上に坪井正五郎の碑が乗る和山上古墳がある。いずれも横穴式石室を内包する古墳である。

戸坂遺跡群は、戸坂遺跡Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、供養塚Ⅰ・Ⅱ、四ツ塚遺跡Ⅰ・Ⅱが過去に調査されている。縄文時代中期、弥生時代後期、古墳時代後期、奈良時代、平安時代それぞれの集落址が検出されている。今回調査地点の南に接する戸坂遺跡Ⅱでは、縄文時代中期の竪穴住居址2棟と平安時代の竪穴住居址3棟、さらに、弥生時代後期の環濠と思われる溝状遺構も発見されている。



第2図 戸坂遺跡群戸坂遺跡Ⅱ・鳥取城跡周辺遺跡位置図 (1:15000)

2. 調査体制

調査主体者
事務局

佐久市教育委員会
社会教育部長
社会教育部次長
文化財課長

教育長 木内 清
柳沢義春
山崎明敏
中山 悟 (平成19年6月退職)
森角吉晴 (平成19年7月着任)

文化財調査係長
文化財調査係

三石宗一
林 幸彦 須藤隆司 小林真寿 羽田卓也
神津 格 冨沢一明 上原 学 出澤 力

調査体制

調査担当者
調査員

林 幸彦 佐々木宗昭
赤羽根充江 磯貝律子 澤井知春 清水澄生 清水律子 春原幸子
大工原達江 田中ひさ子 日向昭次 中山清美 堀籠保子 山元有美子



第3図 戸板遺跡IV調査全体図

第二章 遺構と遺物

1. 遺構と遺物の詳細

遺構	竪穴住居址	1軒(平安時代?)
	溝状遺構	5本
遺物	縄文時代後期土器	
	弥生時代後期土器	
	須恵器・土師器	
	土製円盤(縄文時代)	

2. 基本層序

遺跡調査対象地は、浅間第一軽石流の堆積が志賀湖と香坂川およびその支流に浸食形成された「田切地形」台地上に位置している。水利が悪く一帯は、畑地である。遺跡の基本層序は第Ⅱ層に分かれ、第Ⅰ層は畑の耕作土。第Ⅱ層は、浅間第一軽石流の堆積で調査範囲西側に柔らかな黄色ロームが確認できるが、南東側は耕作土直下が浅間第一軽石流の堅く締まった明黄褐色土となる。第Ⅱ層が遺構確認面である。



H1号住居址断面(西方から)

3. 遺構と遺物

対象地の大半はすでに土砂採取が進行していた。平面的に検出できたのはM1号溝状遺構とM5号溝状遺構の一部である。H1号住居址とM2～M4号溝状遺構は断面のみ調査できた。

H1号住居址 本址は東の調査区境断面で確認した。幅は3.5m深さ50cmを測る。南側の壁下に周溝がみられる。床面は固く敲き締められている。小片であるが、土師器片や須恵器破片が出土した。

M1号溝状遺構 本址は、調査区北端に位置する。規模が幅5～6m・深さ55～80cmを測る。溝は西に向かうに従い底面が下がる。覆土は黒褐色土層が主体で、固く締まっていた。流水の痕跡はない。遺物は須恵器破片が1点出土した。

M5号溝状遺構 本址は、調査区中央に位置する。溝址としたが部分的な検出であり土坑の可能性もある。規模は幅19m・深さ55cmを測る。第5図1～5の弥生時代後期後半の土器片が出土した。3の壺は、受口状の口縁部に櫛描波状文が施文され内外面赤色塗彩される。2は口縁部内外面赤色塗彩される壺、1は球形の胴部を持つ壺で肩部に横の櫛描条線文が施文され外面



M1号溝状遺構(南東方から)



M5号溝状遺構(西方から)



左からH1号住居址、M2号溝状遺構、M3号溝状遺構の断面（西方から）



M2号溝状遺構、M3号溝状遺構の断面（西方から）

は赤色塗彩される。4の裏には横波状文が施される。他にI層から土師器甕・須恵器坏片が、2・3層より弥生時代後期の壺や坏片が多く出土した。

M2号溝状遺構 本址はH1号住居址の南隣で確認した。M3号より新しい。「V」字形の断面で、幅3m深さ1.3mを測る。戸坂遺跡Ⅱで弥生時代後期の環濠とされた溝と同一遺構である。

M3号溝状遺構 本址はM2号と切り合う。M2号より古い。「U」字形の断面で、検出部幅3.7m深さ1.0mを測る。戸坂遺跡ⅡでM1号とした溝と同一遺構である。

M4号溝状遺構 本址は調査区中央の東西断面で確認された。溝としたが戸坂遺跡Ⅱの調査結果から、本址が南側に延びることはなく、また、東側断面にも該当する遺構が無い。土坑かもしれない。

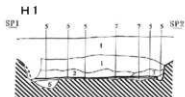
7は表採資料で、単節LRの縄文が施文された土製円盤である。6はM2・3号の断面から検出され、細くて鋭利な沈線で幾何学文が施文されている。縄文時代後期前半掘之内式の深鉢。



M4号溝状遺構断面（東方から）

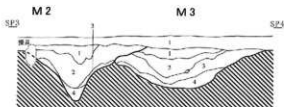


遺構確認作業（M1号溝状遺構付近）



H1 土層説明

- 1層 黒褐色土 (10YR3/2)
表土 (耕作土)
- 2層 暗褐色土 (10YR3/4)
白色軽石 (1cm大) 少量含む。
- 3層 褐色土 (10YR4/4)
- 4層 白色軽石 (1cm大) 少量含む。
- 5層 灰黄色土 (10YR6/4)
明黄褐色土のブロック少量含む。
- 6層 褐色土 (10YR4/4)
- 7層 明黄褐色土のブロック含む。
- 8層 褐色土 (10YR4/4)
明黄褐色土のブロック多量に含む
- 9層 褐色土 (10YR4/4)
明黄褐色土のブロック多量に含む
- 10層 褐色土 (10YR4/4)
明黄褐色土のブロック多量に含む
- 11層 褐色土 (10YR4/4)
明黄褐色土のブロック多量に含む



M2 土層説明

- 1層 黒褐色土 (10YR3/2)
表土 (耕作土)
- 2層 暗褐色土 (10YR2/2)
暗褐色土の小ブロック少量含む。
- 3層 暗褐色土 (10YR3/4)
灰黄色土 (10YR6/4) 及び赤褐色土の小ブロック・0.5cm大の小礫多量に含む。
- 4層 灰黄色土 (10YR6/4)
暗褐色土の小ブロック少量、明黄褐色土のブロック少量、0.5cm大の小礫含む。
- 5層 褐色土 (10YR4/4)
明黄褐色土のブロック少量、0.5cm大の小礫含む。

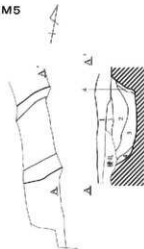
M3 土層説明

- 1層 黒褐色土 (10YR3/2)
表土 (耕作土)
- 2層 灰黄色土 (10YR6/4)
灰黄色土と褐色土の小ブロック・白色軽石 (1cm大) 少量含む。
- 3層 暗褐色土 (10YR3/4)
褐色土のブロック多量、明黄褐色土のブロック・白色軽石 (1cm大) 少量含む。
- 4層 暗褐色土 (10YR3/4)
褐色土のブロック少量、白色軽石 (1cm大) 少量含む。
- 5層 暗褐色土 (10YR3/4)
明黄褐色土のブロック多量、白色軽石 (1cm大) 少量含む。

H1・M2～M4 標高 94.99 m
(1:80)

0 2m

M5



M5 土層説明

- 1層 黒褐色土 (10YR3/2)
表土 (耕作土)
- 2層 暗褐色土 (10YR2/2)
- 3層 暗褐色土 (10YR2/2)
暗褐色土のブロック多量に含む。
- 4層 暗褐色土 (10YR3/4)
灰黄色土 (10YR6/4) 及び赤褐色土のブロック多量に含む。

標高 94.20 m
(1:80)

0 2m

SP5

M4

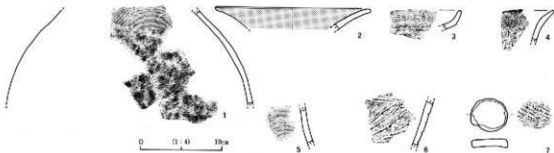
SP6



M4 土層説明

- 1層 灰黄色土 (10YR6/4)
表土 (耕作土)
- 2層 暗褐色土 (10YR3/4)
明黄褐色土のブロック少量含む。
- 3層 暗褐色土 (10YR3/4)
明黄褐色土・灰黄色土のブロック含む。
- 4層 褐色土 (10YR4/4)
灰黄色土のブロック多量に含む
- 5層 褐色土 (10YR4/4)
明黄褐色土のブロック含む。

第4区 戸坂遺跡IV遺構実測図



第5区 戸坂遺跡V出土遺物実測図

報告書抄録

書名	戸坂遺跡群戸坂遺跡Ⅳ・烏坂城跡
ふりがな	とさか とさか とりさか
シリーズ名	佐久市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第150集
著者名	林 幸彦
編集・発行機関	佐久市教育委員会
発行年月日	2008. 3. 31
郵便番号	385-0006
電話番号	0267-68-7321
住所	長野県佐久市志賀 5953
遺跡名	戸坂遺跡群戸坂遺跡Ⅳ (TOSⅣ)・烏坂城跡
遺跡所在地	佐久市志賀 1079-2
遺跡番号	263 275
経度	36° -15' -04." 4583 (世界測地系)
緯度	138° -30' -03." 5256 (世界測地系)
調査期間	2007. 5.21 ~ 2007. 6.18 (現場) 2007. 6.27 ~ 2007.10.31 (整理)
調査面積	170㎡
調査原因	土砂採取
種別	集落址 城郭
主な時代	縄文時代~中世
遺跡概要	遺構 竪穴住居址1軒(平安?) 溝状遺構(弥生時代後期他) 遺物 縄文土器・弥生土器・土師器・須恵器
特記事項	戸坂遺跡Ⅱの調査で検出された弥生時代後期の環濠等の断面が露出し、貴重な資料となった。

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第150集

戸坂遺跡群 戸坂遺跡Ⅳ

烏坂城跡

2008年3月

編集・発行 佐久市教育委員会
〒385-8501 長野県佐久市中込 3056
文化財課
〒385-0006 長野県佐久市志賀 5953
TEL 0267-68-7321

印刷所 白田活版株式会社